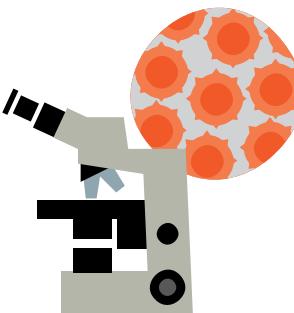


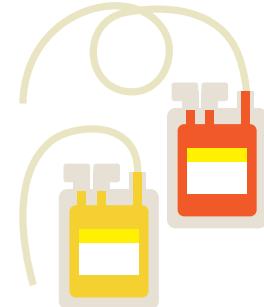
安全かつ効果的な 輸血療法と細胞治療を しっかりと支えています



輸血や細胞治療を安全かつ効果的に行うためには、患者さんの血液や細胞の検査のほか、緊急対応も含めた輸血用血液製剤や治療用の細胞の適切な管理・運用などが必要です。輸血・細胞治療センターではさらに、院内で一部の製剤を作るなど、大学病院ならではの高度な医療を支え、患者さんのQOL（生活の質）の向上に寄与しています。

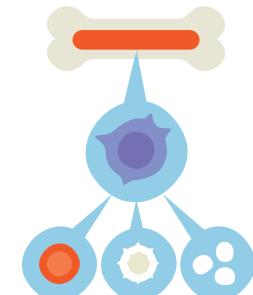
輸血って？

けがや手術で出血したときや、血液疾患などで血液を十分に作れない場合などに、欠乏している血液成分を補う治療法です。病状や治療に合った製剤を選んで輸血を行います。



細胞治療って？

造血幹細胞移植や免疫細胞療法など、患者さんご自身や他人の細胞を用いて行う治療法。当院では、患者さんの免疫細胞を遺伝子医療の技術で改変してがんを治療する「CAR-T療法」も行っています。



9名の臨床検査技師のほか、医師、薬剤師、事務員などが業務に当たっています。

輸血関連検査



安全な輸血ができるよう、ABO血液型・RhD血液型のほか、輸血による副反応の検査など、さまざまな検査を行っています。

院内製剤の調製



輸血・細胞治療センターの臨床検査技師は全員が製剤を調製できる細胞治療認定管理師の資格を持っており、血液製剤を患者さんの状態に合わせてカスタマイズしたり、患者さんの血液から組織接着剤などを作ったりしています。

細胞機能検査

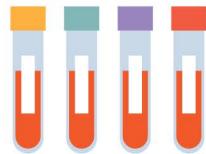


白血病や血液がんなど血液疾患の診断に必要な検査や、治療が有効かどうかを確認する検査、免疫細胞の種類や数を測定する検査などを行っています。

血液製剤や細胞の保存・管理



血液製剤は、成分によって保管する温度や保存期間が異なります。また、細胞治療に用いる細胞はマイナス196°Cなどの超低温で冷凍保管しています。これらを適正な状態で管理して品質を維持し、必要としている患者さんのもとへきちんと届けます。



輸血療法や細胞治療を安全に行うために 情報の発信や共有に積極的に取り組んでいます

輸血では万が一の誤りも許されません。輸血・細胞治療センターでは、各医療現場からの輸血に関する要望や質問に24時間対応できる体制を整えるとともに、ミスが起こらないような医療現場全体での仕組みづくりにも力を入れています。また、各診療科の医師などからなる輸血療法委員会を定期的に開催して、輸血療法を安全に実施できるよう尽力しています。

情報紙を発行してコミュニケーションを活性化



臨床輸血看護師
大島 万理

臨床輸血看護師
植村 綾香

認定輸血検査技師
奥田 典子



輸血を正しく行っても、副反応や合併症が起きることがあります。そういった場合に迅速かつ適切に対処できるよう、認定看護師2名と検査技師1名で「輸血療法ニュース」を発行。看護師をはじめ輸血に携わるスタッフに配布するなどして、知識の拡充とコミュニケーションの活性化に努めています。

無駄にしないように、でも不足しないように 万が一の災害にも備えています

輸血用の血液製剤は、多くの人の善意の献血によって提供されたものです。また、細胞治療に用いる細胞の中には、数千万円するようなものもあります。きちんと保管して効果的に使うことはもちろん、廃棄率をできる限り低くして、無駄にしないよう、でも不足しないような運用を実践しています。加えて、震災や大きな事故に対応してきた当院の経験を生かし、来たるべき災害などに備えてシミュレーションや訓練もしっかりと行っています。当院では、輸血に関する大きな事故はここ30年近く起きていません。責任も大きいですが、その分やりがいも大きいので、これからも患者さんのために頑張っていきたいと思います。

いけ もと じゅん こ
輸血・細胞治療センター 課長 池本 純子

